

飯伊 産業経済動向

No.460 2017/7
(29. 8. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,702	枚	△	1.5 %	11.0	%
	金額	4,130,157	千円	△	19.3 %	18.1	%
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	7	件	(前月 9 件)		(前年同月 9 件)	
	飯伊	0	件	(前月 0 件)		(前年同月 0 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(6月)		57	戸		9.6 %	△	10.9 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(6月)		1.54	倍	(前月 1.43 倍)		(前年同月 1.32 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,179	台	△	13.7 %	4.8	%
	中古車	630	台	△	5.8 %	10.9	%
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会)(6月)	新車	4,093	台		13.7 %	19.8	%
	中古車	1,098	台	△	5.4 %	5.1	%
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	119,320	台		5.6 %	0.7	%
	出	119,655	台		6.2 %	0.7	%
中央道利用台数 (松川インター分)	入	81,506	台		6.6 %	2.9	%
	出	79,604	台		5.9 %	4.0	%
中央道利用台数 (園原インター分)	入	13,963	台		35.3 %	△	5.7 %
	出	14,187	台		33.3 %	0.4	%
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	43,791	台		15.9 %	0.2	%
	出	43,155	台		13.9 %	△	1.5 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		148	件	△	7.5 %	△	18.7 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		16	件	(前月 3 件)		(前年同月 7 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	26,791	人		11.8 %	1.0	%
	飯田～名古屋	18,332	人		15.4 %	4.1	%
	飯田～長野	9,876	人	△	0.3 %	△	1.0 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,298	人	△	8.4 %	△	5.3 %
	右回り	3,500	人	△	5.6 %	0.3	%

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに行っています。



100%植物性インキ
[リチウム]100%を使用しました。

再生紙を
使用しています

概 況

製造業

7月の製造業の業況判断指数(DI)は、プラス10.7で、前月から6.5ポイント下降。翌月予測はプラス27.6で、前月から5.7ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の販売は、前月比やや減少～横ばい、前年比は増加との声も。一部に先行き売上の増加を見込む声も。半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比横ばい～やや増加。前年比は増加。「半導体需要増による繁忙継続」など景況感が好転している業者が多い。産業機器や医療機器等部品の販売は、業者により増減分かれるが、やや減少との声が多い。もっとも、先行きは上向きとの見方が多い。建築用金属製品の売上は、前月比、前年比とも減少も、「徐々に引合は増加している」こともあって景況感の悪化には至っていないとの声が寄せられた。自動車向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれる。前年比は増加。小型電磁機器の販売は、前月比増加。前年比は概ね横ばいとの声が聞かれた。景況感が好転した業者も見られ、こうした業者では先行きも上向きという。FA関連モーターの受注、販売は、前月比、前年比とも増加、「産業機械向け、車載向けともに増加で推移」との声が聞かれ、景況感も好転している。光学機器等の受注、販売は、前月比概ね横ばい、前年比はやや減少との声が寄せられた。電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も好転との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比概ね横ばい～やや増加、前年比はやや減少～概ね横ばい。景況感が好転した業者は見られない。水引製品の販売の前月比は、概ね横ばい。「業況は先月とほとんど変わらない」などの声が寄せられた。漬物の販売は、前月比、前年比とも減少との声が寄せられた。「値上げの機運がある商品群もあるようだが、多くの商品群ではまだデフレ指向が見られる」という。

建設業

7月の建設業の景況DIは、0.0で、前月から6.3ポイント上昇。翌月予測DIは、プラス5.6で、前月より11.9ポイント上昇している。

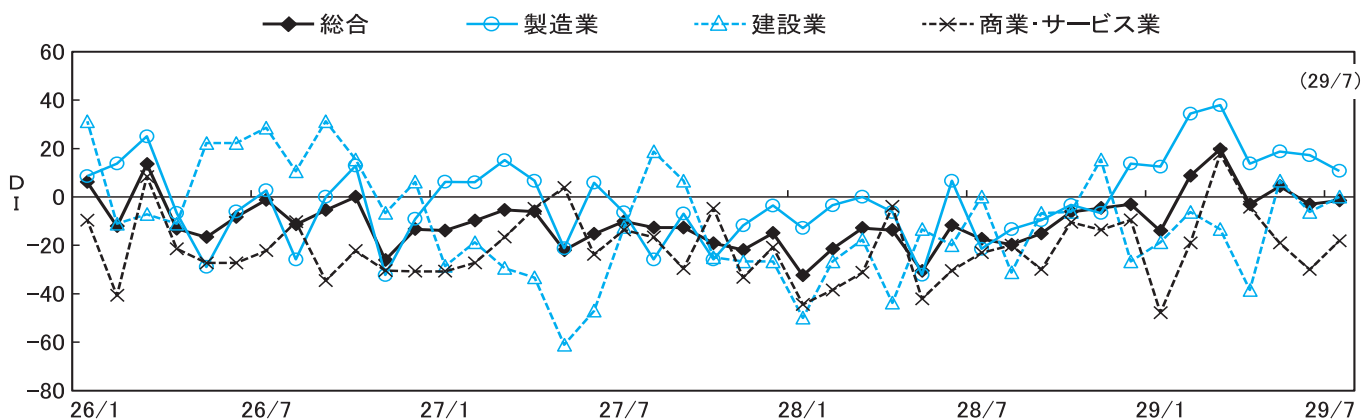
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約6.3億円で、前月比は38%減少、前年比も54%減少している(7月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、増減分かれるが、横ばいとの声が多い。「全国的には建設業は活況のようだが、当地区は例年より仕事量が少ない」など「工事件数が少ない状況に変化はない」という。

民需の住宅着工戸数(6月)の住宅着工戸数は57戸。前月比10%増加も、前年比は11%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～増加。「製造業では工場を増設する会社が増えている感」などの声は多いが、こうした業者からも「建築は、工事が出ている割にはそう忙しくはない」などの声が聞かれた。「新築住宅とリフォームは、少ないながら、ある程度先も見える」などの声。

商業・サービス業

7月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス18.2と、前月より11.8ポイント上昇。翌月予測DIも、0.0で、前月より5.3ポイント上昇している。食料品の売上の前月比は、やや減少～横ばい、景況感が悪化した業者も複数見られた。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感の好転には至らないとの声。家事用品卸の売上は、前月比やや増加、前年の特殊要因で前年比は減少も、一昨年度よりは良いとの声。電化製品の売上は、前月比増加、前年比は概ね横ばい～増加。衣料品の売上は、前月比は業者により増減まちまち、前年比はやや増加。娯楽用品では、「前月比、前年比とも若干増加」との声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比14%減少、前年比5%増加。6月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比14%増加、前年比も20%増加。自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比共に減少との声。市内料理店の売上は、前月比やや増加との声。しかし、前年比はやや減少との声が多い。市内旅館の売上は、前年比やや減少との声が聞かれた。屋神温泉の売上は、前月比横ばい～やや増加、複数の業者から、前年比もやや増加との声が寄せられた。タクシーの売上は、前月比やや増加、前年比やや減少との声。

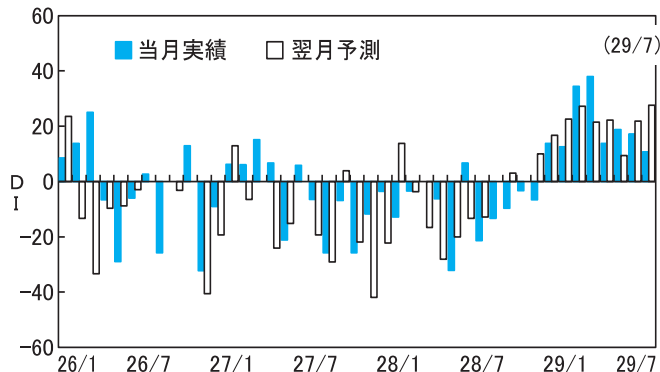
飯伊地区景況DI (本誌調査)



製造業

地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



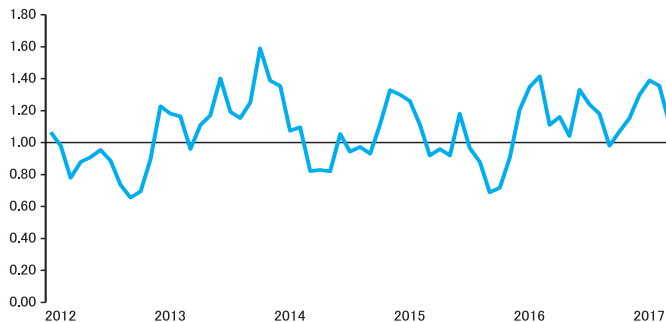
当月実績	10.7	（前月 17.2）
翌月予測	27.6	（前月 21.9）

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス10.7で、前月から6.5ポイント下降。翌月予測はプラス27.6で、前月から5.7ポイント上昇している。

半導体、FPD製造装置の需要予測

本誌調査先企業からも景況感の好転が伝えられる半導体、液晶製造装置に関し、（一社）日本半導体製造装置協会が本年3月まで毎月公表していた、半導体製造装置（日本製装置）のBBレシオ（受注額の3か月移動平均を販売額の3か月移動平均で除したもので、数値が1を超えると出荷額よりも受注額のほうが多いことを意味し、半導体業界の業績の先行きが明るいことを示唆しているとされる）を見ても、2016年後半から1を超えて推移している。

半導体製造装置（日本製装置）BBレシオの推移



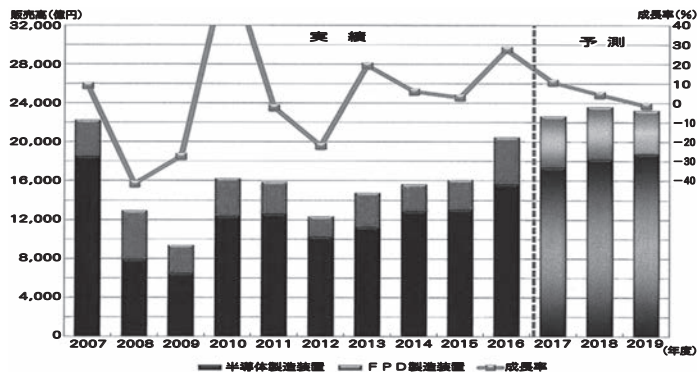
（資料：（一社）日本半導体製造装置協会）

同協会が7月に公表した「半導体、FPD製造装置需要予測」によれば、「半導体製造装置については、2017年度の日本製装置販売高は、3D-NAND向けの投資の更なる増加とファウンドリ（半導体チップの製造を専門に行う企業）や大手ロジックメーカーの継続した投資により前年度比11.0%増加の1兆7,363億円を予測」しているほか、FPD製造装置についても「中国、韓国市場の旺盛な設備投資が継続し、2016年度からの繰り越しもあり2017年度の販売高は前年度比1.9%増の5,300億円を予測している」という。

また、2017年度から2019年度の3年間、4.3%の年平均成長率を見込んでいるという。

半導体及びFPD製造装置 全装置予測 〔日本製装置販売高予測〕

*「日本製装置販売高」とは、日系企業（海外拠点を含む）の国内及び海外への販売高



（CAGR：2016年～2019年）

年度	実績										予測			CAGR
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
半導体製造装置	18,510	7,954	6,528	12,415	12,637	10,284	11,278	12,921	13,089	15,642	17,363	18,231	18,778	
FPD製造装置	3,761	5,031	2,887	3,840	3,260	2,089	3,485	2,717	2,993	4,857	5,300	5,400	4,500	
合計（億円）	22,271	12,985	9,415	16,255	15,897	12,373	14,763	15,638	16,082	20,499	22,663	23,631	23,278	
前年比成長率(%)	9.0	-41.7	-27.5	72.7	-2.3	-22.1	19.3	5.9	2.8	27.5	10.6	4.3	-1.5	4.3%

（資料：（一社）日本半導体製造装置協会）

機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売は、前月比やや減少～横ばい、前年比は増加との声も。一部に先行き売上の増加を見込む声も聞かれた。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面は現状維持との声が大勢を占める。設備面では、「予定有り」「機械の納入があった。今後も納入予定」など積極的な声が多い。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売は、前月比横ばい～やや増加。前年比は増加。「半導体需要増による繁忙継続」「半導体は好調」など景況感が好転している業者が多い。「スマホ、車載向け」「3D-NAND型メモリ向け」「FPD関連」など多くの製品で「増産継続」という。先行きも上向きとの見方が多い。こうした中、「相変わらずオーバーワーク気味で、仕掛在庫が上昇」との声も。原材料、資材価格に関し「アルミ素材が上昇」しているという。雇用面の不足感依然強い様子で、「社員、派遣を複数名ずつ採用。今後も社員若干名を予定しているほか、新卒者も募集している」「現状不足。複数名補充が必要」などの声も聞かれた。また、設備面でも「機械導入済み。冬頃さらに予定」「現状不足している。導入を検討している」など積極的な声が多い。原材料、資材価格に関し、当月大きな動きはなかった様子も、「アルミ材の上昇基調は変わらない」という。

産業機器や医療機器等部品の販売は、業者により増減分かれるが、やや減少との声が多い。「先月と変わらず全般に忙しい。同業も忙しいそうだ」「量産ものが増加した。親企業の開発した製品が量産につながったほか、海外移転した一部の量産品が戻り、久しぶりに設備がフル稼働した」「ロボットが好調」「難加工物が量産に繋がり、売上が向上した」など景況感が好転した業者も複数あるが、「食品の製造設備が落ち込んだ」「受注の話はあるが、客先のGOに時間がかかっている」「客先で購入品の納入が遅れており、受注に影響が出ている」など当月の景況感が悪化した業者も少なくない。もっとも、先行きは上向きとの見方が多い。

雇用面では、「求人募集中」「次月より増員」「一部増員」「複数名入社」「若干の不足が見込まれる」など

の声が少ない。設備面では現状維持との声が多いが、「入れ替え」「加工設備投資準備中」「機械導入予定」「一部増強」などの声も。「アルミ材がキロ当たり10円アップ」など原材料、資材価格がやや上昇しているとの声が複数。一部に製品価格が上昇した業者が見られた。

建築用金属製品の売上は、前月比、前年比とも減少、「例年秋口まで低迷。向こう1～2か月は厳しい」ものの、「徐々に引合は増加している」こともあって景況感の悪化には至っていないとの声が寄せられた。原材料、資材価格に当月動きはなかったものの、「今後は上昇を見込んでいる」という。雇用面、設備面で積極的な声がある。

自動車向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれる。前年比は増加しているが、これには「生産数量が増えていることもあるが、有償材料の値上げ分が転嫁されている」といった事情もあり、そうした有償支給材について「アルミ材などで高騰している」という。雇用面、設備面では現状維持の様子。

小型電磁機器の販売は、前月比増加。前年比は概ね横ばいとの声が聞かれた。景況感が好転した業者も見られ、こうした業者では先行きも上向きという。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

FA関連モーターの受注、販売は、前月比、前年比とも増加、「産業機械向け、車載向けともに増加で推移」との声が聞かれ、景況感も好転している。先行きもこうした基調が続く見込みという。原材料、資材価格が増加傾向にある一方、製品価格がやや下降しているとの声が寄せられた。

光学機器等の受注、販売は、前月比概ね横ばい、前年比はやや減少との声が寄せられた。一部に、先行き弱含みとの声も。原材料、資材価格に当月大きな動きはなかった様子。雇用面、設備面では現状維持との声が聞かれた。

電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も好転との声が寄せられた。「国の研究機関との連携の話が増えている」との声も。人員面で「開発要員不足」という。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比概ね横ばい～やや増加、前年比はやや減少～概ね横ばい。「毎年のことだが、この時期半生菓子は厳しい」「定番の動きが今一つ」「お盆に向けての注文は予定通り」「秋に向け注文は増加する見込み」などの声が寄せられ、景況感が好転した業者は見られない。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面では概ね現状維持も、一部に「手当済みだが、現状は不足」との声も。設備面では、一部に「実施中」との声もあるが、概ね現状維持の様子。

水引製品の販売の前月比は、概ね横ばい。「業況は先月とほとんど変わらない」「盆用品の動きに大きな変化は見られなかった」「当社の場合、各地の集中豪雨によるマイナスの影響があった」などの声。次月以降は受注の増加を見込む声が多い。原材料、資材価格に関し、「中国の製造単価が上昇」との報が寄せられた。「金額的には大きいものではないが、今年に入って当社の新製品の一部が契約になった。継続して幅広く見本を出していきたい」「水引の需要は必ずあると思っている。アイデアを広く引き出すことは個々の企業のみならず業界全体の課題ではないか」「夏休みのこの時期、子供向け体験教室が多く開かれる。当業界でも水引体験教室を開催したが、多くの親子連れに楽しんでもらえたと思う。内職者が減少しているが、子供のころから水引に親しんでもらい、地元の水引ファンを確保しておく取組の重要性を感じる」などの声が

寄せられた。

漬物の販売は、前月比、前年比とも減少との声が寄せられた。「値上げの機運がある商品群もあるようだが、多くの商品群ではまだデフレ指向が見られる」という。「天候の変化が極端。今後の状況を注視していきたい」との声も聞かれた。

その他製造業

印刷、出版関連の売上は、前月比やや増加、前年比は「売上、件数ともに前年並み。スポットの大口が大きく数字を左右する」との声が寄せられた。「ネット印刷がテレビCMでも多く見かけるようになり、一般に広く知られるようになった。同業である当社にもDMが届くくらいで、安値競争に歯止めがかからない」との声が寄せられた。雇用面で、「募集中だが、年齢制限のため応募が少ない」との声も。

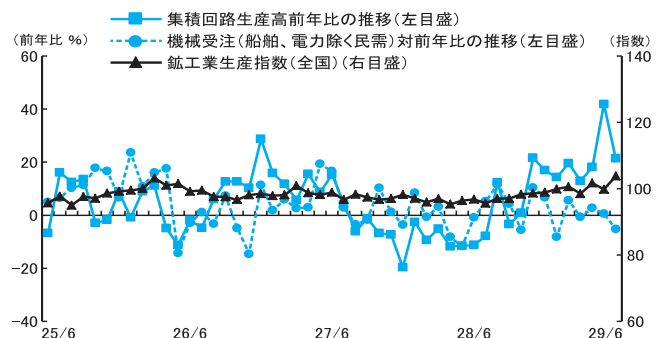
衣料品の受注は、前月比、前年比ともやや増加との声が寄せられたが、「冬物の仕掛りが遅れ売上が作れない」こともあって、販売は減少しているという。「百貨店販売は昨年よりも良いようだが、これは昨年が悪すぎたため期待薄。ECサイトによるネット販売が売上を伸ばしている」「猛暑で軽衣料しか売れないのだが、単価が取れず収益は悪化しそう。一方で重衣料の工場は手空き状況。また、ロットの大きいものや仕様が凝ったものは海外生産が進んでいる。こうした状況下で国内工場は苦戦しそう」などの声が聞かれた。雇用面の不足感が依然続いている様子。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器など家具の生産は、前月比やや減少、前年比はやや増加しているものの、「春需で持ち直しつつあった仕事量も先月から夏枯れ感が出始め、夏場は非常に厳しい状況。9月以降に期待する声は多いが、裏付けになる材料が見当たらない」といい、当月の景況感も悪化している。「住宅関連向けは単価が原価割れしているとの声が多い。それですら数が少なく、穴埋めのために細かいものを採算割れしてでもかき集めなければならない状態という。一方、単価が良いものもないではないが、年々減少の一途。こうした中、単価の安いもので量を満たすと、単価が良い仕事が受けられなくなるため、情報を取り、キャパシティに空きを持たせながら運営していて、仕事は薄く、利益はないという厳しい声が多い」という。

【企業からのコメント】

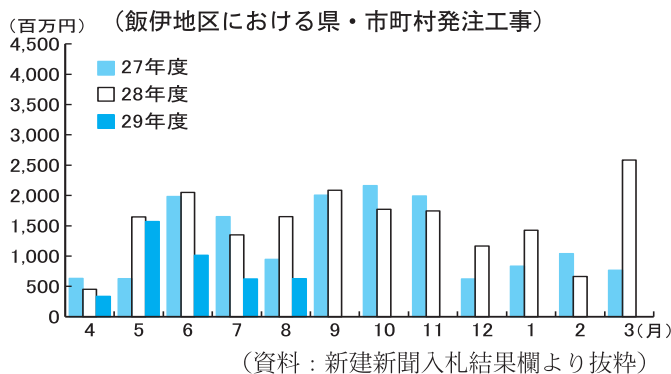
- ★業界全体で新しい市場を創造し、個々の企業が生まれ変わるきっかけになることも必要だと思う。各企業の協力も重要ではないか。
- ★高校によると、「就職希望者のほとんどが地元企業を希望している」という。
- ★世代交代に不安がある。来春の新卒者に期待している。
- ★半導体関連部品の生産を再開する予定。

集積回路、機械受注・鋳工業生産指数の推移



建設業

月別入札額



当月景況DI 0.0 (先月 -6.3)

翌月予測DI 5.6 (先月 -6.3)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約6.3億円で、前月比は38%減少、前年比も54%減少している（7月15日調査時点）。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、増減分かれるが、横ばいとの声が多い。「弊社の場合、昨年と比べると大きく工事高を伸ばしている」「当社は盆前に工期となる現場がいくつかあり忙しい」などの声もあるが、「発注量は例年になく少ない。第1四半期の発注は例年より厳しい」「盆明けには受注しないと手が空いてくる。幾らか発注になっているとはいえ、景気が良いとは言えない」「沿海部の地震、津波対策で、中山間地に予算が回っていないのではないか」「全国的には建設業は活況のようだが、当地区は例年より仕事量が少ない」「全国的には人手不足だが、当地区の建設業界では技術者や職人が余っている」など、「工事件数が少ない状況に変化はない」という。

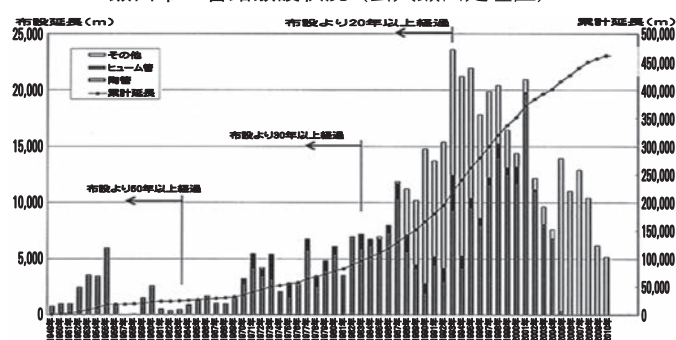
三遠南信自動車道やリニア中央新幹線関連工事に関し、「あまり動きはない」「忙しい地区から下請けの依頼があるが、急な受注増加は後で苦しくなると思われ、地元の最低限の工事に注力している」などの声。

こうした中であっても、「一割増員」「施工職員募集中」「業務量はあるが技術者不足。求人は続ける」「技術者、営業、経理で募集」「2名退社、1名入社」「建築技術者が不足気味」「仕事が少ないので採用しなかったが、仕事量増加の場合には不足するぎりぎりの状態」など、採用意欲の強さをうかがわせる声は多い。

飯田市の下水道の長寿命化

「市民皆水洗化」を掲げた下水道整備基本計画により普及拡大が進められてきた飯田市の下水道は、総延長681km、整備総額647億円余のストックとなっている。今後は、整備拡大から「計画的維持管理と健全経営」へ大きく方向を変えた「飯田市下水道事業経営計画」

飯田市の管路敷設状況（公共飯田処理区）



によって、下水道機能の維持、向上を進めるとともに、安定した経営を確保することとしている。この中で、経年50年以上で老朽化の進んだ公共飯田処理区から長寿命化対策を進めるという。

民需

当地区の6月の住宅着工戸数は57戸。前月比10%増加も、前年比は11%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばい～増加。「製造業では工場を増設する会社が増えている感」「表には出ないが精密などでは好況感が感じられる」などの声は多いが、こうした業者からも「建築は、工事が出ている割にはそう忙しくはない」「建築、建設は、民間においては横ばい」「大型工事では予算が厳しそう」「民間の建築主体の業者は、仕事の確保はできているようだが、例年よりは少ないのでは」などの声が聞かれ、景況感も悪化した業者こそ見られないものの、好転した業者は多くない。住宅については、「リフォームのみ」「新築住宅とリフォームは、少ないながら、ある程度先も見える」などの声。

建設資材

建設資材の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が寄せられた。仕入単価が前月に比べやや下降している様子。雇用面で「採用予定」との声が聞かれた。

鋼材の売上は、前月比、前年比ともやや減少、「6月に比べ荷動きは悪化。要因と言っても見つけにくく、全体に後退している感。先行きも確としたものがなく見通しが見えない。回復基調とは思えない」など景況感も悪化との声も寄せられた。鋼材価格に関し、「値上がり傾向にあるが、大きな動きはないと予想される」という。

生コンの売上は、前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。「前月比、前年比とも増加。主な出荷は、リニア関連工事、砂防工事、民間設備、老人介護施設、村の駅に関わるもの。リニア関連工事は増加している」などの声も聞かれたが、こうした業者でも景況感も好転していないほか、「出荷量がなく低迷、公共事業の発注がなく、総じて厳しい状況」など景況感も悪化した業者も見られた。

骨材等の売上は、前月比は横ばい～やや増加。一部に景況感が好転した業者も。「生コン向けの砂利、砂の出荷が増えた。松川インター～大鹿線の2本のトンネル向け生コン出荷が多かった」「一般公共工事は相変わらず少ないものの、リニア中央新幹線関連がそこそこ動き出しているほか、三遠南信自動車道関連も、アスコン舗装、コンクリート舗装の工区で動き出している」などの声も寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★地方の苦境は続く。
- ★飯田下伊那の景気は良いのではないか。
- ★忙しい業者とそうでない業者の格差がある。

住宅建築確認申請受付状況（※本誌調査による概数）

7月 ○飯田建設事務所分

新築 8件（前年 11件）

増築 3件（前年 5件）

○飯田市役所分

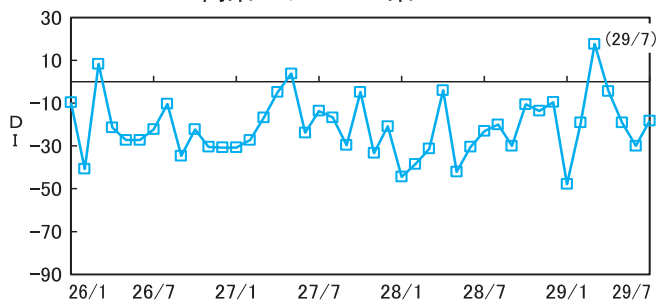
新築 31件（前年 20件）

増築 1件（前年 0件）

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI	-18.2	(先月 -30.0)
翌月予測DI	0.0	(先月 -5.3)

商業

食品品の売上の前月比は、やや減少～横ばい、前年比も、「客数減」などやや減少との声が多く、景況感が悪化した業者も複数見られた。「魚貝類の品不足等で、サンマ、タコ、冷凍エビなど値上がりが続いている」など、仕入価格上昇との声は多い。

【青果卸売市場】

売上は、前月比、前年比とも減少という。野菜は、「天候に恵まれ順調な入荷。価格も、前年比マイナス6%、ここ3年間でも一番の安値。天候次第だが、安値傾向は続きそう」との声。果実は、「主力の桃とプラムは、昨年の前進出荷とは打って変わり、生育の遅れと少雨により出荷が遅れたため、入荷量が5割減。りんご、ぶどうも同様に減となり、全体では入荷量24%減、価格は12%高」との声が寄せられた。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感の好転には至らないとの声。

家事用品卸の売上は、前月比やや増加、前年特殊要因があったため前年比は減少も、一昨年度よりは良いとの声寄せられた。「9月の飯田市指定ゴミ袋変更に伴い、既存のゴミ袋の買い控えが発生している」などの声寄せられた。

電化製品の売上は、前月比増加、前年比は概ね横ばい～増加。「家庭用エアコンが動いた感もあるが、昨年とはほとんど同じ」「暑さが厳しく、家庭用エアコン、配管などまずまずの伸び。その他の家電品は横ばい」「LEDは、新規、入れ替えともにあり、良く売れた」などの声のほか、「工場向け制御機器が好調が持続。景気が良い業種も見られる」などの声寄せられた。

OA機器の売上は、前月比、前年比共にやや増加も、「例年夏は売上が減少する。今年も同様に厳しい」など景況感の好転には至っていないとの声聞かれた。

衣料品の売上は、前月比は業者により増減まちまち、前年比はやや増加。「例年この時期は静かだが、熱いせいか前年より良いと思う。今まで販売が少なかった夏服の注文が少しずつ増えてきている」といった声の一方、「出張販売の分が増加したが、依然衣料品は消費志向が悪く厳しい」などの声聞かれた。

娯楽用品では、「前月比、前年比とも若干増加」との声寄せられた。

土産物関連の売上は、前月比やや増加～増加も、景況感の好転していない。一部に前年比もやや減少との声。「当店が立地している道路沿線の通行量が回復しない」「製品の製造装置に支障が出た」などの声。雇用面で、「当月1名。今後も予定」「増員予定」などの声聞かれた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比14%減少、前年比5%増加。中古車は、前月比6%減少も、前年比は11%増加した。6月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比14%増加、前年比も20%増加。中古車は、前月比5%減少も、前年比は5%増加した。

自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比共に減少。中古車販売で、「売上台数は前年より増えているが、低年式の中古車が多く、台当たり単価が売上、仕入共に下落」などの声寄せられた。また、整備について「車検台数が伸び悩む中、最近の車は交換部品も少なくなり、一台あたりの売上が減少。自動車保有台数が減少傾向にあることもあって、整備工場の淘汰が始まっていると言えるのではないか」との声寄せられた。

サービス業

市内料理店の売上は、前月比やや増加との声。しかし、前年比はやや減少との声が多く、景況感の悪化には至らないものの、「今年に入ってから売上は何か月かを除いて前年割れしている。人が動く日が極端に偏っていて、忙しい日は結構予約が入るが他の日は動かないという面が目立っている。同業でもそうした声は多い」「今年に入り、前年割れの月ばかりで景気はあまり良く感じない」「求人倍率が高い、景気が良いというが、あまり感じない」「次月は盆月で今月よりも多少よさそうだが、総じて期待できる要素は少ない感」などの声聞かれた。仕入価格に関し、「イカ、サバなど大衆魚が高い」との声聞かれた。

市内旅館の売上は、前年比やや減少との声聞かれた。雇用面で若干不足感があるという。

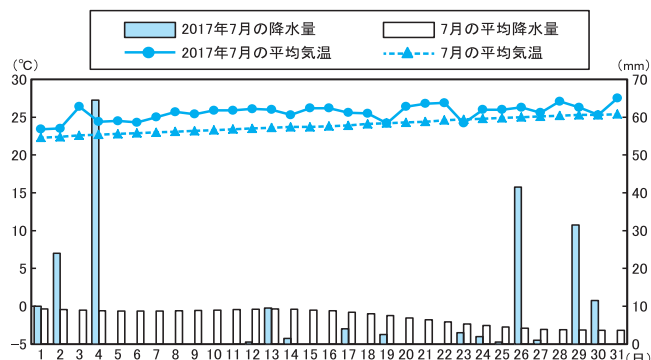
昼神温泉の売上は、前月比横ばい～やや増加、複数の業者から、前年比もやや増加との声寄せられた。「夏休み盆休み等で人出が増加する為、売上也増加する見込み。ナイトツアーも週末を中心に混み合ってきた」「ナイトツアーが始まり前年度より客足増加も、ここにきて台風の影響も出ている」「好天もあって新たな投資の効果が出た」などの声。そうした中、「ナイトツアーは昨年よりブームが多少去った感じがある。人数的にもやや減少。全国で同じようなイベントを始めた事も一因か。何らかの対策が必要では」との声も寄せられた。雇用面の不足感依然強く、「募集しても応募がない」「仲居さんはじめ従業員不足で業務を回すのに精一杯。サービス等に手がまわっていない。お客さまに悪い印象を持たれてしまわないかと不安」などの声。

タクシーの売上は、前月比やや増加、前年比やや減少との声寄せられた。「夜の需要が低迷している。上向き感が感じられない」「他産業は上向いているようだが、その流れが伝わってこない。消費の内容を考えているようだ。夜間の人の流れは、残念であるが、賑わいが感じられない状況」「純粋なタクシー事業だけでは行き詰る恐れもある」などの声寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★当業界では県内で再編が進んでいるようにも思われる。他の業界の実情はどうか？
- ★上伊那地域、北信など県内で同業者が廃業し、困っている顧客もある様子で、こうした地域からの注文もある。

飯田の気温と降水量

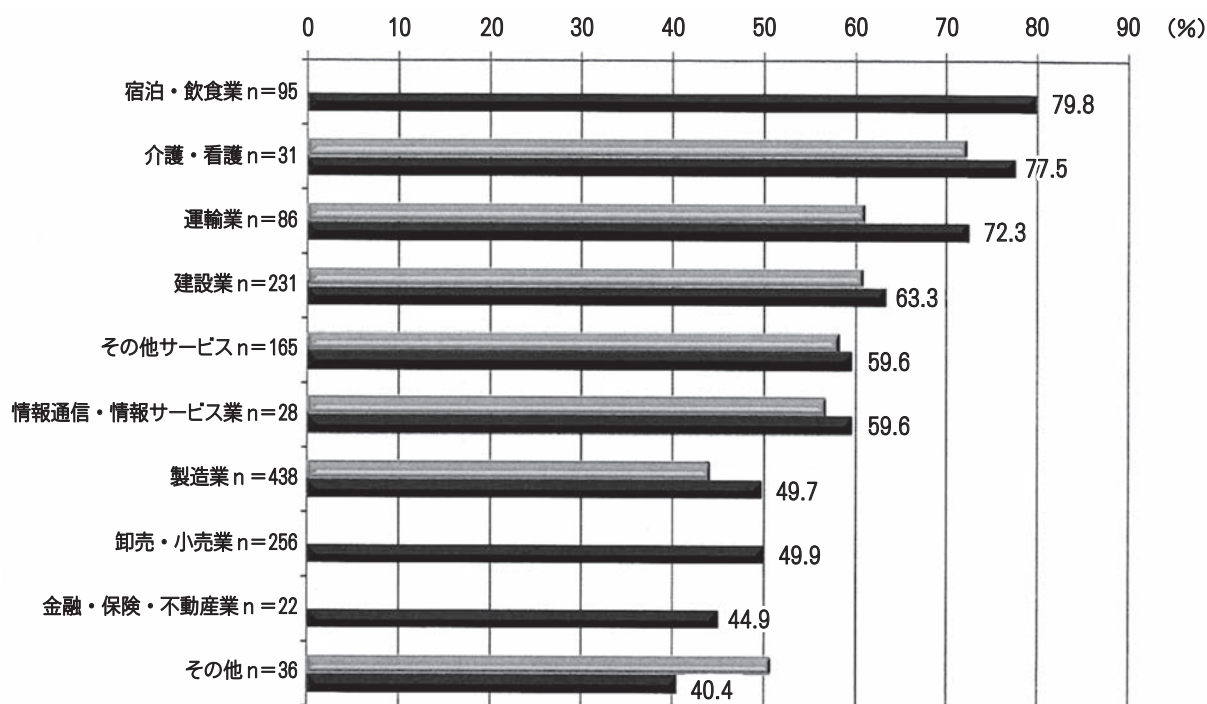


じわじわと迫る人手不足

飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課
 中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

このところ、企業訪問時に、業種を問わず人手不足の話題が多くなってきました。図は日本商工会議所が調査した資料ですが、全国的にも人手不足が深刻になってきています。

図-1 不足していると回答した業種の割合



※ 下段は28年度調査、上段は27年度調査の数値

※ 「宿泊・飲食業」「卸売・小売業」「金融・保険・不動産業」は今年度新規項目のため前年度比較はない

※ 母校は業種複数回答を含む

(出所：日本商工会議所「人手不足等への対応に関する調査 H29. 7. 3」)

景気は回復に向かいつつも、人口減少や少子高齢化というわが国の構造的課題があり、生産労働人口が減少する中、人手不足は、中小企業にとって大企業以上にピンチといえます。特效薬は無く、企業は、将来に向けて知恵や工夫が求められています。

では、中小企業はどう対応すればよいか？

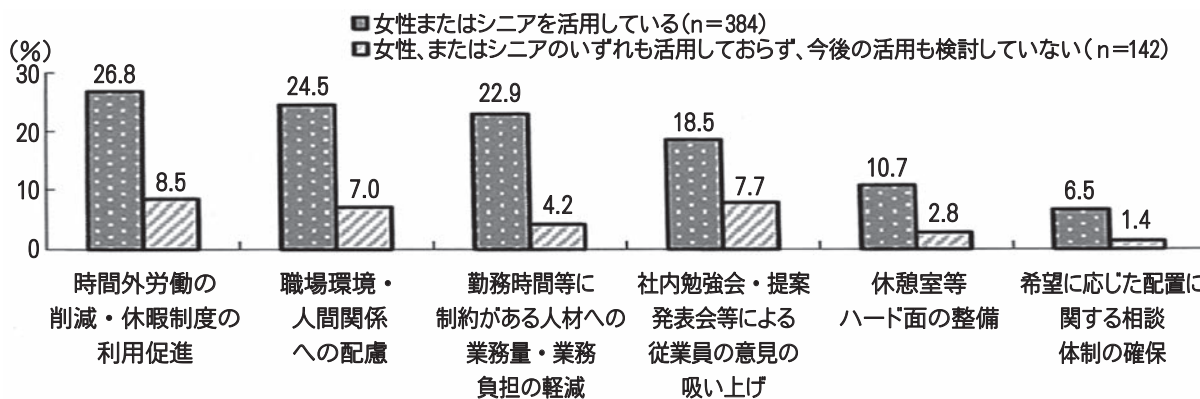
一つには、国の「働き方改革」では、恒常化していく人手不足に関して多様な働き方を企業に求めています。

女性や高齢者は、育児との両立や健康の維持といった事情を抱え、働く意思があっても実際に職につけない潜在労働力が多く存在しており、こうした女性や高齢者等の多様な働き手を活用すれば活路が開ける可能性もあります。就労条件、賃金、福利厚生、やりがい等の職場環境整備を進めることで、潜在労働力を掘り起こし活力を産み出せることもあります。

小生は、現在67歳。昨年、同級会があり出席しました。当たり前ですが、全員67歳。昔の話はするものの、詰まるところ病気の話、健康の話、年金の話になってしましますが、出席者のほぼ全員が、「チャンスがあれば働き

たい」と思っています。その理由として「生活の糧を得たい」を挙げる者はいませんでした。かなりの者が「健康にいいから」とか、「生きがいを得られるから」と言っていました。全国的にも、65歳を超えても働きたい高齢者は多数いると思います。健康や生きがいを重視して配慮するような環境を整備すれば、経験や知見を持った高齢者の雇用も人手不足対策になる可能性は大きいと思います。また、子育て中の30代後半から40代前半の女性は「子育てをしながら働ける環境」や「残業が多くない」といった柔軟な勤務条件を整備すれば対応可能と思われる。こういった働き手側に立った環境整備をして求人する方法もあるでしょう。

図-2 女性・シニアの活用状況別にみた、職場環境の整備に関する取り組み



(出所：中小企業白書 H29. 3)

二つには、現在の人数を維持しながら一人当たりの労働生産性を上げていく方法もあります。ハード面では、国も力を入れている IT、AI（人工知能）、ロボット等を利用する方法があります。これらの技術革新は目覚ましいものがあり、それによる業務の改善が生産性の向上に繋がります。長崎のハウステンボスに「変なホテル」という宿泊施設があります。人間が携わるのが当たり前と思っていたフロント係やサービス係をロボットがこなしていく、まさに「変なホテル」が登場しています。社長は「変なホテルでなく、変革するホテルと捉え、人出不足の中、今後もロボットにサービスを任せて行きたい」と話していますが、さて皆様はどう考えますか？

ソフト面では、一人一人の能力を今より上げるために、従業員研修やOJTによる働き手の能力を高めることも生産性を上げる手段になります。製造業でいう多能工です。こういった取り組みは、経営資源の少ない中小零細企業にとって大企業に負けない有効な手段と考えます。

三つには、今いる従業員の定着率を高めることも重要です。以前、私が経験した従業員30人位（男女比50%位）のある会社は、特段給与や福利厚生が悪いわけではないのに女性の離職率が高く、長年会社の課題でもありました。ある時、退職した知人女性と話をしたところ思わぬ返答があり、社長に提言しました。実はこの会社、トイレが男女兼用だったのです。社長は女子トイレと更衣室を設置し、定着率が良くなったという事例があります。中小零細企業は、こういった従業員の目に見えない思いを感じ取ることも重要です。

今後、さらに人手不足が想定される中、中小零細企業は、得意とする知恵やアイデアを絞ることが肝心ではないでしょうか。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

リニア岐阜県駅と東濃地域の状況

当課では、リニア中央新幹線沿線地域の信用金庫との情報交流を行っておりますが、このほど東濃信用金庫（本店：岐阜県多治見市）へ第2回目の訪問を行い、情報交換をいたしましたので概略を紹介します。

1. 岐阜県内の動向

岐阜県内で工事が始まっているのは日吉トンネル（瑞浪市）のみ。リニア岐阜県駅の周辺整備は、「個々の地権者には具体的な話はまだ始まっていない」（東濃信金）という状況です。

中津川市の進捗状況は、本年4月にリニア駅周辺土地区画整理事業が都市計画決定され、同じく7月5日から7月18日の間に土地区画整理事業計画案の縦覧を実施、また同計画案に対するパブリックコメントを同8月1日まで募集したところ



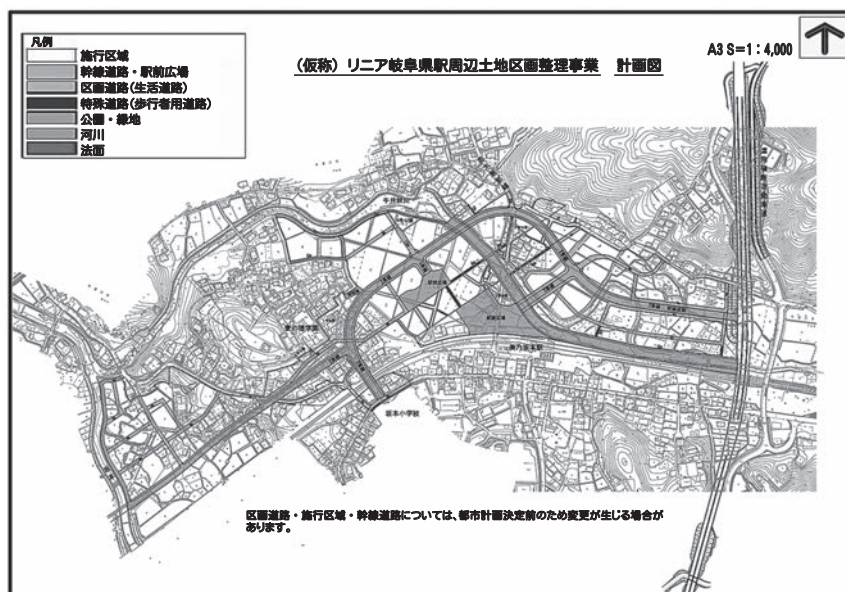
東濃信金本店（多治見市）

です。市が示す事業スケジュールでは、今年度中に区画整理の事業認可を受ける。平成30年度から32年度にかけて、測量、詳細設計と、地権者への土地利用意向調査（個別面談）、仮換地原案作成、個人説明会、仮換地指定までを予定。同33年度より工事を開始し、同39年のリニア開業を迎えることとしています。リニア岐阜県駅予定地周辺に居住する方々にとっての駅周辺整備は、この土地区画整理事業への対応をどうするかということで個々に話が及ぶことになります。

事業案計画図によると、区画整理施行区域の計画街路は濃飛横断自動車道にインターチェンジで繋がり、これが坂本地区にできるジャンクションで中央自動車道と結節します。濃飛自動車道でルートが確定しているのは「中津川工区」の中央自動車道と木曾川までの間ですが、今後飛騨方面への延伸に向けルートの決定が要望されています。

かねてより課題とされていたリニア岐阜県駅と飛騨地方や中濃地域とのルート整備に向けた取り組みが駅周辺整備と並行して徐々に形になってきています。

都市計画決定が成った岐阜県駅の区画整理事業案



(中津川市HPより)

2. 東濃地域の観光振興への取り組み

リニア開通を見据えた取り組みの中で、観光については「どうしたらリニア岐阜県駅に乗客が降りてくれるか、乗客がどこへ行くか。東濃地域には年間入込客数100万人の下呂温泉や同700万人の土岐アウトレットなどがあり、これと地場産業の陶器などと結んだ観光ルートなどできているが、リニア時代にはまだまだ力不足。飛騨方面、木曽方面との連携による観光ルートの開拓をはじめ課題は多い」(東濃信金)とのことです。

その中で本年7月、中部経済連合会(以下中経連)と東濃6商工会議所(多治見、中津川、土岐、瑞浪、恵那、可児)により観光振興のための「ツーリズム東美濃協議会」(以下協議会)が発足しました。昨年10月中経連と6商工会議所が地域活性化のための取り組みに合意。東濃信金の地域活性化研究所から中経連と各商工会議所の専務理事で構成する「ワーキングメンバー」に加わり、新組織の立ち上げに協力しました。

今後ともワーキングメンバーとして運営に携わるとともに、地域の観光資源の棚卸しや他地域との連携などに取り組んでいくとしています。

「ツーリズム東美濃協議会」発足を伝える新聞記事



3. 岐阜県駅予定地の状況

中津川市のリニア岐阜県駅予定地を訪問しました。

JR美乃坂本駅からリニア駅予定地の辺りは、工事こそ行われていませんでしたが測量業者による測量作業が盛んに行われていました。これは前述の土地区画整理のための測量作業と思われます。

リニア本線や駅部に当たる箇所の道路には杭(鉾)が多数打ち込まれていました。

リニア岐阜県駅予定地(中津川市千旦林地区)



リニア対策課で現地を撮影し、発表されている予想図に基づき本線・駅部のおおよその位置と高さを表示

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)